



長野市民病院
Nagano Municipal Hospital

長野市民病院広報誌

第12号

平成16年11月15日

あした元気になあれ

長野市民病院 の理念

1. 命のいとおしさを大切に、人間味あふれる医療を提供します
2. 医療水準の向上に努め、高度で良質、安全な医療を提供します
3. 個人の人權と意思を尊重し、情報の開示、説明と同意を基本とする医療を提供します
4. 地域の保健、医療、福祉機関等との機能分担に配慮し、円滑な連携を図ります



患者さまに好評な バイキング料理

ややもすると単調で味気ない病院の食事を患者さまの視点に立つて食欲をそそる工夫や研究に努めておりますが、その一つに開院当初から実施しております『バイキング料理』があります。

最近高級ホテルでも個人が好きな料理や飲み物を必要なだけ選んで食べる方式が定着しています。この市民病院版です。

毎月第三週の水、木、金曜日に実施しており、四月から十一月までは朝食、十二月から三月までの冬期間は夕食となっています。

会場のレストランは、この間患者さま専用となり、入り口付近のテーブルには季節感を考えた料理や飲み物が並べられます。そして介助なしでお盆に盛り付けられる患者さまは白力で、また、糖尿病、高血圧、手術後の患者さまは栄養士や看護師、給食のスタッフの指導や介助によりバイキング料理を楽しんでもらっています。

料理は、季節感を出したり、クリスマス、雛祭り、端午の節句、中秋の名月など折々の行事食も取り入れ、工夫を凝らしたメニューとなっています。バイキングについてのアンケートでは、『季節を感じさせる栗御飯は最高でした。』『華やいだ気分がとてもおいしかった。』等患者さまには好評です。

亜急性期入院医療管理料

施設基準を取得

十月から八床

平成十六年の診療報酬の改定で『亜急性期病床』が新たな診療報酬上の病床区分として設定されました。亜急性期病床は、急性期を過ぎ、引き続き病院で療養が必要な患者さまが利用できます。

亜急性期病床を利用される場合、一般病床よりも入院費が高くなる場合がありますが、最大で九十日の入院が可能となります。そして在宅復帰（介護老人保健施設等も可）される患者さまが六割以上いることが要件です。

患者さまがこの病室に入院された場合、在宅復帰支援担当者が病室に伺い、ご自宅での生活などでご心配なことや様々な福祉制度のことなどについて、ご相談させていただきます。

のように病院長発令をしました。

・在宅復帰支援担当者

五十嵐由江

（地域医療連携室看護師長）

畑 一二巳

（医事課医療福祉相談室長）

褥瘡対策委員会の活動について

長野市民病院では、院内に褥瘡対策委員会（齋木實委員長）を設置し、褥瘡対策に取り組んでいます。委員会は毎月一回開催され、褥瘡の予防や治療に関する検討が為されています。また、委員会内には各部署から選出されたメンバーにより褥瘡対策チームが組織され、患者さまへのきめ細かな対応を行っています。

亜急性期病室

スキンケア外来の開設

（人工肛門・人工膀胱・褥瘡（床ずれ）の相談）

（社）日本看護協会(WOC)看護認定看護師
清水 徳子

今年十月から「スキンケア外来」を開設しました。

スキンケア外来とはどんな外来なのでしょう。

スキンケアの意味は幅広く、皮膚を美しく保つ「美容」という言葉で表現されることもあります。看護におけるスキンケアは、予防的なスキンケアを重視します。ストーマ造設（人工肛門・人工膀胱）した方・褥瘡（床ずれ）・失禁のある方は、皮膚を健康に保つためのスキンケアが大切です。そのお手伝いをするところからスキンケア外来です。

入院・通院中の方、訪問看護を受けている方、ご自身やご家族で困りのことがございましたら、お気軽にご相談ください。

スキンケア外来のご案内

1. 対象となる方

＊ストーマをお持ちの方

＊褥瘡・瘻孔・失禁などのケアが必要な方

2. 外来日

＊毎月第1、第3木曜日の

3. 場所

午後1時から5時まで

4. その他

＊看護相談室及び外科外来処置室

4. その他

＊完全予約制となりますので必ず

予約が必要です。

また、医師の診察が必要となりますので、現在、診療を受けている診療科にてご相談ください。

長野市民病院充実検討委員会開催される

増床事業の概要、当初計画の変更内容等を報告

十月五日、本年度第一回の長野市民病院充実検討委員会が開催されました。昨年度の本委員会では、市民病院の増床についてご審議をいただき、増床の必要性を鷺澤市長に答申したところです。

これを受けて長野市では、救急医療の充実と百床増床のための事業が予算化され具体的に動き始めました。当初計画した内容は、その後病院内の建設委員会で細部に渡って検

第二回公社理事会開催される

九月十六日、財団法人長野市保健医療公社の理事会が市民病院の市民健康ホールで開催されました。

議決案件はなく、報告案件として市民病院の百床増床事業についての事業の概要および当初計画の主な変更内容、事業の進捗状況、今後のスケジュールを報告しました。

その他の事項で医療機器のPETの導入について理事のご意見をお聞きしたところ、他の医療機関で導入の計画がない現状では導入について前向きに検討することになりました。

討したところ一部に変更が生じました。

この変更内容の報告と現在の事業の進捗状況、今後のスケジュールについて説明しました。

当初計画の変更点の主なものは次のとおりです。

- ・ 夜間の救急外来の入り口は救急車と同じ北側でしたが、北側は救急車専用の入り口として、救急外来の患者さま、お見舞いの方は病院東側の夜間入り口（守衛をおく）としました。

- ・ これにより、北側の路上駐車がなくなり広い駐車場が使えます。

- ・ 現在の病棟を療養環境加算の施設基準をクリアさせるため、四床部屋を三床にして、不足する病床を新設の病棟に七十床ほど求める計画でしたが看護単位の増、建築費の増などから採算面で合わなく、現在の病棟はそのままとしました。

PET（陽電子放射断層撮影装置）の導入を断念

長野市保健医療公社の理事会に提案し検討事項となっておりますP

ET・CTの導入について、医療連携のもとに地域医療機関に開放し、東北信地区住民のがんの早期診断に役立てたい意向を説明しました。

席上、副委員長の高橋長野市医師会長から、『今朝厚生連の病院長から連絡があり、十七年度事業として、東信、北信の厚生連の病院で導入の

長野市消防局 救急救命士の 気管挿管の 実習に協力

計画がある』との報告がありました。これに対して、長田病院長は、『厚生連で導入するのであれば、それはそれでいい、官が民を圧迫するようなことはしてはならない、市民病院としては、地域の中で検査できる施設があればよい。』と答弁。事実上導入を断念しました。

国家試験に合格した救急救命士が更に教育を受け、人形を使った気管挿管実習を行い合格した者が、更に医療機関で実習を積み資格を得るものです。

当院でも二名の救急救命士を受け入れ実習に協力しています。

手術を受けられる患者さまには指導する麻酔科の専門医から事前に説明があり、同意が必要となっています。

十月下旬から実習生を受け入れ、手術室において鬼頭麻酔科科長の指導のもとに実習を積んでいます。

実習で救急救命士が行うことは

- ・ 手術室入室後、麻酔前、酸素マスクを患者さまにあて、酸素を投与する。

- ・ 患者さまの入眠後、マスクを用いて人工呼吸を行う。

- ・ 気管挿管を行う。

- ・ 気管挿管チューブを固定する。

- ・ 人工呼吸を再開する。までです。

薬剤投与など右記以外の処置等はすべて麻酔科医が行います。



パーキンソン病は神経疾患の中で、は脳卒中の次に頻度が多い疾患で、多くの患者が五十〜七十歳くらいで発症します。日常生活が制限されて

パーキンソン病

県内で最も患者数の多い難病
早期に専門医受診を

神経内科統括科長 山本 寛二

いる難病（特定疾患）認定患者だけでも全国に約六万六千人で、公費負担対象となる四十五難病のうち二番目に多い疾患です。長野県に限ると（長寿県であることと関連すると思われる）が、最も認定患者数が多い疾患となります（約千二百人）。高齢化社会が進むにつれて、今後さらに患者数が増加すると予測されます。

症状は手足のふるえ、筋肉のこわばり、動作緩慢などで、ゆっくり進行します。ふるえは動作をしていないときに強くなり、動作をするときには弱くなるのが特徴です。歩行時に歩幅が小さくなり、腕の振りも小さくなって、歩き出すと止まりにくくなります。また笑顔が少なくなり、気分は憂うつになります。

パーキンソン病は原因不明の難病ですが、一方で治療法がよく研究されている疾患でもあります。ドーパミン製剤が開発されて、患者の日常生活は飛躍的に改善しました。他の薬と組み合わせることで、一部の施設で脳の手術が行われて良好な成績が



みなさまの 声

市民病院では、開院以来、外来・入院の患者さま、お見舞い等の皆さまから様々なご意見・ご要望をいただいております。

毎月、貴重な意見を集約して職員に回覧。できることから改善、検討を加えております。最近お寄せいただいたものの中から選んで紹介します。今後とも叱咤激励をお願いします。

外

来月一度の診察に付き添ってまいります。半月に一度予約で薬をもらいに来ますが、毎回決まった薬ですが、一時間近く待ちます。それに支払でまた待ち、半日仕事になってしまいます。予約なのにもう少し何とかならないものかと思えます。流感の季節などはうつりそうでも少しでも待ち時間を短くしていただきたい。（患者付添い・七十五歳・女性）

◆回答

薬だけの場合でも医師の指示により処方されますが、患者さまによつては、様々な要望がありますので、各診療科では患者さまが受付した時点より投薬の手続きをい

たします。前日より準備したカルテに、医師が処方内容を記述し、事務が処方箋を出力して、再度、医師により正しく処方されているか確認をして、患者さまへと渡ります。内科、整形外科など患者さまの数が多い診療科では、お待たせしておりますが、ご理解をお願いします。

ラ ウンジで食事をしていきますが、暑すぎてかえって病気になるそうです。まだ、暖房は早いと思います。平温に戻してください。よろしくお願いいたします。（入院患者・六十歳・女性）

◆回答

最近の急激な冷え込みにより、ラウンジ付近が特に寒いとの苦情が多かったため、ラウンジの暖房が可能な状態にいたしました。この季節は寒暖の差が激しいため、利用される方々のご意見も様々です。今回のご意見のように暑すぎるといった場合は、ご面倒ですが職員にご連絡いただければ、スイッチを切る等の対応をさせていただきますので、よろしくお問い合わせいたします。

エ

レベータについて、乗る人とはぶつかりそうになる事がよくあります。「エレベータは降りる人が優先です。全員が降りてから



今年度から職員定期健康診断を

外部委託

今年の職員定期健康診断からその業務を財団法人長野県健康づくり事業団に委託しました。しかし、レントゲン胸部撮影は市民病院で自前で行います。

従来は、市民病院の機材、スタッフを使つての職員健康診断でしたが、診療の間隙をぬつての診断である

託児所の園児 特養のお年寄りと交流

六月下旬、託児所の子供達と保育士で「富竹の里」を訪ねました。行くまでは、小さい子供達がお年寄りの方と、うまくコミュニケーションが取れるか心配でした。ところが訪ねてみると、お年寄りの方々が笑顔で迎えて下さり、初めは緊張していた子供達も次第に慣れ、一緒に手遊び、歌を歌って楽しむ事が出来ました。中には、すっかり慣れて膝の上にだっこされ、おやつを頂く場面もありました。子供達の情操教育の為に年二回程計画し、お年寄りの方と交流を持ちたいと考えています。



計測、視力、聴力、血圧、尿検査、肝機能、血中脂質、血糖などの検査が流れ作業で実施され、時間的な口スがなくなり職員には好評でした。

従来は、医師、診療放射線技師、検査技師等多くの職員の手を煩わしたほか、総務課ではオーダーの手配から結果の取りまとめまで行っており、現行の職員体制では限界でした。レントゲンの胸部撮影は、間接フィルムと直接フィルムでは精度の点で問題があるとして、従来どおり自前で行う予定です。

乗り込みましよう」を各エレベータに貼って注意すべきだと思えます。降りることができなくて、転倒直前というのを何度か目撃しました。

(入院患者・三十九歳・男性)

◆回答

エレベータを利用される方のモラルが問われる問題と考えますが、入院患者さまや体が不自由な方については、エレベータに限らず当院の施設を気持ちよく利用していただけるよう。対応策を検討して参ります。

人

間ドックの婦人科検診がオプション扱いになつていますが、ドックの際にも、子宮頸がんと乳がん検診の受診券を同時利用できるようにしていただけると大変ありがたいです。他の病院などでも可としているところがあります。

(人間ドック受診者・女性)

◆回答

ご要望はよく理解できますが、乳房検診や子宮がん検診には、人員も必要ですし、とくに婦人科検診には細胞診検査も必要で経費もかかります。このことから多くの施設では、オプション検診としています。唯一包括化していた施設も近いうちにオプションに切り替える予定と伺っています。ご理解をいただければ有り難く存じます。

月岡院長は、飯山市のご出身で、父親が山ノ内町で開業医をしていた影響で、小さい頃から医師になりたいという強い願望があったそうです。

長野高校、信州大学医学部を卒業後、医師としてご活躍され、長野赤十字病院勤務を最後に、J R三才駅近くに開業して25年になります。

地域密着型のアットホームな感じの診療所です。

趣味はゴルフだそうです。畑仕事（野菜作り）やガーデニングも大変お好きで休診日や診療後の空いた時間は、しゃくなげを挿し木から育てたり、あじさい、アゼリア等の世話をしたりと、多趣味な先生でもあります。

地域住民の方や患者さんに喜んでもらえる事が何よりも医師としてのやりがいになっているそうで、月岡先生は今後も、人間味にあふれた地域に密着した診療所であり続けたいと、話しておられました。



登録医制度による地域医療連携システムが昨年五月にスタートしてから市民病院への紹介患者さまや、市民病院から地域の診療所に逆紹介するケースが増えています。
現在の登録医は、医科二百四名、歯科九十八名です。この欄では、順次登録医の医師を紹介してまいります。

登

録

医

紹

介

No.1



▲手話ダンスを行う東御市の人々。

病院ボランティア
はづきの会

東御市民病院を視察交流

手話ダンスを見学

市民病院ボランティアグループの『はづきの会』の視察研修会は、去る九月に実施されました。

今年、東御市民病院を選んで病院の様子を見学後、ボランティアの皆さまと交流を深めました。

東御市民病院は、今年の四月に東部町と北御牧村が合併したのに合わせ、今まで東部町にあった東部ひま

わり病院を移転新築したもので、病棟のベッドの配置にも新しい考えが導入されています。

東御市民病院のボランティアは、元保健補導員の皆様を中心となって活躍されていますが、当日披露していただいた『サンフラワーズ』という手話ダンスグループによる手話ダンスは、新鮮で人目をひきましたのでご紹介します。

グループの代表である荒井悦子さん（東御市常田）にお聞きしました。

『手話ダンスは、姉妹都市の東京都大田区の皆さんから教わったもので、ふるさと、瀬戸の花嫁等の曲にあわせて、手話による振り付けをしたものです。現在聴覚障害者七名の方も含めてメンバーは五十五名。聴覚障害者から見て、正確に意味がわかる手話をしながらリズムカルに踊ります。聴覚障害者が積極的に社会参加できる手話ダンスの意義は深いものがあります。』

病院内のボランティア活動のほか、病院外の特別養護老人ホームなどに出席してお年よりに見ていただく手話ダンスは、中々好評です。

善意の寄付二題



がん患者用帽子の 寄贈

＊がん患者用帽子の寄贈
抗がん剤を使用している患者さまは、脱毛に苦勞されておりますが、これらの患者さまに一役買おうと、

点字の病院案内書を 寄贈

当院に入院治療された患者さまから点字の病院案内書の寄贈がありま

ある患者さまは、『デパートで探したが、中々気に入ったものがなかった。色柄も洒落ていて、軽くて、とてもかぶりやすい』と評判は上々です。

長野ぼーしグループ信濃町木曜会（代表・池宮和子さん）の皆さまから、がん患者用の手作りによる帽子の寄贈があり、入院患者さまから喜ばれています。



寄付をしてくださったのは、柳沢八重造さん（長野市上野・六十九歳）です。
長年にわたって点字を学ばれ、入院を機に市民病院の入院案内を点字版に反訳したものです。
入院期間中も点字機で反訳され、成果品を寄贈していただきました。
病院では、早速外来窓口に備えつけいざという時に役立てています。

地域医療機関との連携進む

紹介率四十%を超える

患者さんにとってよい医療サービスを提供するため、医療機関同士や老人保健施設など、地域単位での連携が進んでいます。当院では特に、かかりつけ医（ホームドクター）との連携に力を入れております。当院より診療所（かかりつけ医）への紹介も積極的に行っております。

グラフを見ますと、二年前の平成十四年九月に地域の診療所から長野市民病院に紹介された紹介率は、二

かかりつけ医を 持つ

十五・七%でしたが、昨年の九月には、三十三・一%。本年の九月には、四十・八%と飛躍的に伸びました

かかりつけ医を持つことの利点は、継続して受診することにより、体質や病歴などを把握して更に、病

状の変化に応じて当院などに紹介いただくことで、地域を通じた医療サービスを提供することができま

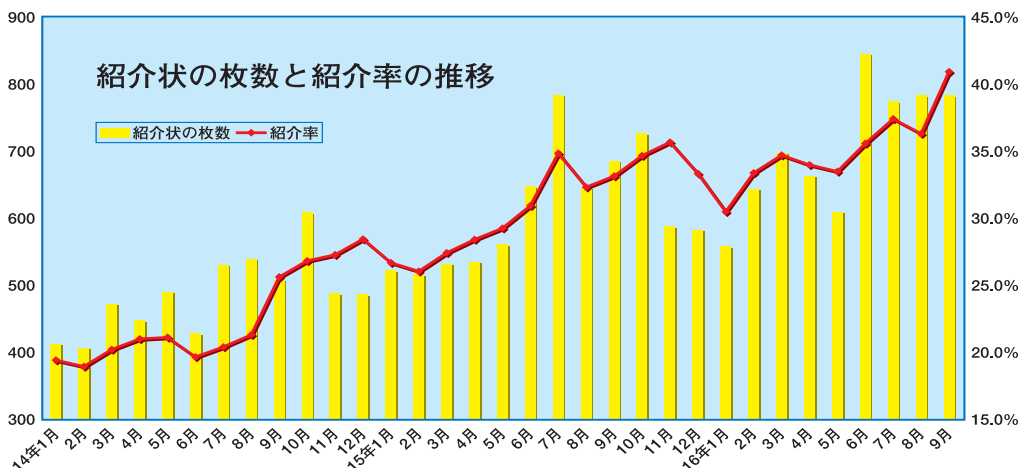
「かかりつけ医を持つ」といっても特別な手続きが必要なわけではありません。普段から健康に関して相談できる診療所が「かかりつけ医」になります。「かかりつけ医」をお持ちでない方には、当院よりご紹介することも出来ます。

そして、この診療所と病院をつなぐ手段となるものが『紹介状』です。

紹介状には、病状や病歴のほかに検査結果が記載されています。したがって診療所と病院で重複した検査を受けるという無駄がなくなり、体への負担も少なくてすみます。

当院では、診療所との連携を推進しています。総合受付の二番の窓口が紹介状持参の専用窓口です。詳しいことは、地域医療連携室までお尋ねください。

紹介状の枚数と紹介率の推移



外 来 診 療 担 当 日 一 覧

長野市民病院

	月	火	水	木	金	備 考	専 門
内 科 (消化器科) (循環器科) (呼吸器科) (神経内科)	○山本 寛二 ○吉池 文明 ○今井 康晴 ○立岩 伸之 ○平林 直章 ○竹花 直樹	— 吉池 文明 ○山崎 誓一 ○今井 康晴 ○丸山 隆久 ○岡本 尚子 ○掛川 哲司	○山崎 誓一 長田 敦夫 ○長谷部 修 ○丸山 隆久 ○平林 直章 ○掛川 哲司 ○山本 寛二	— 吉池 文明 ○立岩 伸之 ○丸山 隆久 ○岡本 尚子 ○掛川 哲司	○山本 寛二 — ○平井 一也 ○今井 康晴 ○長谷部 修 ○平林 直章 ○竹花 直樹	○印は初診担当です	長田 敦夫(消化器・肝臓・脾臓) 平井 一也(呼吸器・肝臓) 今井 康晴(消化器・内臓) 長谷部 修(消化器・内臓) 丸山 隆久(循環器) 山本 寛二(神経内科) 掛川 哲司(腎臓) 吉池 文明(呼吸器) 立岩 伸之(循環器) 平林 直章(消化器) 山崎 誓一(呼吸器) 竹花 直樹(消化器) 岡本 尚子(内科)
小 児 科	○青沼 架佐 田村 秋穂 信大医師	田村 秋穂 青沼 架佐	青沼 架佐 田村 秋穂	田村 秋穂 ○青沼 架佐	青沼 架佐 田村 秋穂	○印はカウンセリング (要予約)です。 午前10時以降	青沼 架佐 (発達・神経・循環器・心身症) 田村 秋穂 (免疫アレルギー・血液・腎臓)
午後 専門外来 (予約制)	乳児一般健康診査	小児心療内科外来	免疫アレルギー腎臓	循環器外来 小児心療内科外来	神経外来 小児心療内科外来		
外 科 (呼吸器外科)	渡邊 隆之 宗像 康博 砥石 政幸	宮川 雄輔 関 仁誌 西村 秀紀	酒井 宏司 宗像 康博 砥石 政幸	— 宮川 雄輔 西村 秀紀	酒井 宏司 関 仁誌 —		宗像 康博(消化器・胃大腸) 西村 秀紀(呼吸器・乳腺・甲状腺) 関 仁誌(消化器・肝臓・胆道・脾臓) 宮川 雄輔(肝胆臓) 砥石 政幸(呼吸器) 酒井 渡邊(外科) 渡邊 隆之(外科)
整 形 外 科	— 南澤 育雄 木下 久敏 ○山崎 啓二 ○松田 智	松田 智 竹山 和昭 ○向山 啓二 ○信大医師 ○南澤 育雄	— 向山 啓二 木下 久敏 ○竹山 和昭 ○南澤 育雄	松田 智 竹山 和昭 — — ○木下 久敏	— 南澤 育雄 — ○信大医師 ○竹山 和昭	○印は初診担当です	南澤 育雄(骨折・リウマチ性疾患・股関節) 木下 久敏(脊椎・脊髄) 松田 智(上肢・末梢神経) 竹山 和昭(脊椎・関節疾患) 向山 啓二(整形外科一般)
形 成 外 科	○滝 建志 三島 吉登	○信大医師 三島 吉登	○滝 建志 三島 吉登	○三島 吉登 滝 建志	○滝 建志 三島 吉登	○印は初診担当です	
脳神経外科	○徳重 一雄 —	竹前 紀樹 ○石坂 繁寿	○竹前 紀樹 —	竹前 紀樹 ○徳重 一雄	○徳重 一雄 —	○印は初診担当です 水曜頭痛外来(初診)	竹前 紀樹(脳腫瘍・脳血管障害・頭痛) 徳重 一雄(脳腫瘍・脳血管障害・頭部外傷) 石坂 繁寿(脳神経外科一般)
皮 膚 科	齋木 實	齋木 實	齋木 實	齋木 實	齋木 實		
泌 尿 器 科	岡根谷 利一 △西澤 秀治	西澤 秀治 皆川 倫範	岡根谷 利一 西澤 秀治	西澤 秀治 信大医師	岡根谷 利一 皆川 倫範	△印の診察は午前10 時30分からです。	岡根谷 利一(悪性腫瘍・前立腺肥大) 西澤 秀治(小児泌尿器・尿路結石) 皆川 倫範(尿路結石・前立腺肥大)
婦 人 科 午後 専門外来 (予約制)	○森 篤 吉田 順子 森 篤	○信大医師 —	○森 篤 吉田 順子	森 篤 ○吉田 順子	○森 篤 吉田 順子	○印は初診担当です	森 篤(悪性腫瘍・不妊症) 吉田 順子(婦人科一般)
眼 科	風間 淳	風間 淳 信大医師	風間 淳	風間 淳 信大医師	風間 淳		風間 淳(眼科一般)
耳鼻いんこう科	野村 康	野村 康	—	野村 康	野村 康		
放 射 線 科	—	橋田 巖	—	橋田 巖	橋田 巖		橋田 巖(放射線治療) 今井 巖(画像診断)
歯 科・ 口 腔 外 科	藤森 林 田村 稔	田村 稔 藤森 林	藤森 林 田村 稔	信大医師 信大医師	田村 稔 藤森 林	初診・午後外来手術 再診	田村 稔(口腔腫瘍) 藤森 林(口腔外科一般)

長野市民病院へのお問い合わせ

〒381-8551 長野市富竹1333-1
TEL 026-295-1199
FAX 026-295-1148
ホームページ <http://www.hospital.nagano.nagano.jp/>

財団法人 長野市保健医療公社

長野市民病院

Nagano Municipal Hospital

医師人事異動

*退職・9月30日付

呼吸器科 市川真也 (開業)
内科 岡田和義 (開業)

眼科 千田奈実 (信大医学部へ)

*新任・10月1日付

呼吸器科 吉池文明 (信大医学部から)

内科 岡本尚子 (信大医学部から)

■発行人 長野市保健医療公社
■編集人 長野市民病院
■編集委員会